

「ぶどうの木」電信通移転

開店式典 子育てママ集会場も設置 30人参加

十勝障害者サポートネット(小栗静雄理事長)が運営する「クッキーハウスぶどうの木」が1日、帯広市内電信通り商店街の東3南6に移転・オープンした。初日から多く



1日にオープンした「ぶどうの木」の店内

の来店客でにぎわった。同商店街振興組合(長谷渉理事長)が進める「地域商店街活性化法」に基づく国の補助事業の一環。商店街のスイ

ーロード形成事業の中核として、独自のスイーツづくりにも参加する。

ぶどうの木は、統合失調症など心の病を抱える女性の働く場として1993年、東2南13にオープン。同組合の誘いを受けて空き店舗を改装した。店内には販売スペースと焼き菓子の製造室、包装作業室を併設。子育て中の母親が集まる集会場も設けた。

1日午前9時半からオープニングセレモニーが開かれ、店員や商店街関係者約30人が

参加した。テープカットやピアノ演奏で開店を祝った。クッキー生地をコンフレークをまぶした「コーンボール」など約30種類の焼き菓子が店頭に並んだ。

小栗理事長は「ぶどうの木」のつるのようにならぬよう地域の人々とのつながりを広げていきたい」と、長谷理事長は「電信通の目玉として、お客さまに愛される施設になってほしい」と話していた。営業時間は午前9時半～午後5時半。土日、祝日は定休。(深津慶太)